

## 令和5年度 第1回 富山県公共事業評価委員会の概要

- 1 日時 令和5年7月27日（木） 13:00～15:00
- 2 場所 県庁4階大会議室
- 3 出席者 中村委員（会長）、大藤委員、近藤委員、星川委員、山口委員、吉川委員
- 4 審議内容（重点審議対象箇所について、パワーポイントで説明）
  - 【土木部事業】（金谷次長） 重点審議対象6件
  - 【農林水産部事業】（宮田参事）

## 【土木部説明に対する主な意見】

## ○一般国道415号新庄川橋（射水市庄西町～庄川本町）

(委員)

- ・今回、工法等も含め大幅に計画の見直しが必要になったとのことだが、令和3年度に地質調査に着手しており、早い段階で見通しを立てることはできなかったのか。
- ・今後については、抜本的な計画変更などの対策を取らなければ困難なのか、それとも工法や工期等の工夫で対応は可能なのか、現時点の考えについて伺う。  
⇒令和3年度の地質調査の結果を基に、下部工・上部工それぞれの設計を行い、全体を見比べ検討を行った結果、見直しが必要となったため時間を要した。  
今後については、地質の状況を再度調査した上で、構造を見直すことを検討してきたと考えている。検討を進めるにあたっては専門家の意見を伺いながら、よりコストが縮減でき早期に整備できる方法で進めて参りたい。

## ○あいの風とやま鉄道線等（富山市明輪町～曙町）

(委員)

- ・工事を実施する上で近接する営業線への安全運行対策などにより、事業費が増加したとのことだが、当初から想定することはできなかったのか。事業を進めていく中で、鉄道事業者との折衝により生じた事態であったのか。  
⇒営業線に影響が生じる可能性のある工種については、夜間の列車が走っていない時間帯でなければならないという条件が示された。施工中の新幹線のレールの歪みをリアルタイム計測が必要となったこと等について、想定はしていなかった。

(委員)

- ・近接する営業線への安全性に留意した施工や信号制御システムの更新等については、事業者との工法・工程の打ち合わせにおいて事前に把握することができなかったか、疑問が残るところであるが、事前準備が難しいということは了解した。

○伏木富山港（富山地区）富岩運河・住友運河

（委員）

- ・便益の算出は住民へのアンケート調査の実施により行われるとのことだが、緑地公園の整備であれば幅広い利用者が想定され、対象者によって結果が異なることも考えられるため、調査対象の考え方について伺う。

⇒旧富山市内の山田地区・細入地区を除く住民を対象として2,000通程度アンケートを配布し、緑地整備をした場合の支払意思額や年間来訪回数を調査した。回答は4分の1程度回収でき、この結果を基に富山市の世帯数を掛けあわせることで算定している。

（委員）

- ・抽出するサンプルに偏りが生じていないかということや、世帯数で割り戻す際にサンプルに応じた割り戻し方法が行われているかという点などに引き続き留意されたい。

○富山海岸（富山市海岸通～浜黒崎）

（委員）

- ・事業開始から長期間経過しているが、これまでの整備による砂浜の回復の様子など、効果発現の状況について示していただきたい。

○B/Cの増減要因について

（委員）

- ・事業着手時等と比較して費用便益比（B/C）が増減している要因は何か。  
⇒費用便益比は、国土交通省のマニュアルの改定による算出方法の変更によるもののほか、事業費や便益を新たに見直すことによっても変動する。

○地盤・地質以外の理由による事業費の増加について

（委員）

- ・これまでの再評価において、事業費が大幅増加したもののうち、地盤・地質以外の影響によるものがどの程度あったか示していただきたい。

（以上）

## 令和5年度 第2回 富山県公共事業評価委員会の概要

- 1 日 時 令和5年10月16日（月） 9:00～12:00
- 2 場 所 〔審議〕県庁4階大会議室  
〔現地視察〕あいの風とやま鉄道線等（富山市明輪町～曙町）  
主要地方道高岡環状線（高岡市上伏間江～佐野）
- 3 出席者 中村委員（会長）、大藤委員、近藤委員、星川委員、堀内委員、山口委員、吉川委員
- 4 審議内容（重点審議対象箇所について、パワーポイントで説明）  
【土木部事業】（金谷次長） 重点審議対象2件

### 5 現地視察 【質疑応答】

#### ○あいの風とやま鉄道線等（富山市明輪町～曙町）

（委員）

- ・近接する営業線への安全運行対策（夜間施工等）が必要となることは計画当初から想定され得る事案ではなかったのか。  
⇒事業着手に向けた鉄道事業者との協議により初めて提示されたものであった。

（委員）

- ・新幹線と在来線が並走する駅周辺路線は他県においても同様の事例が想定されるが、先行県の事例などの調査は行わなかったのか。  
⇒営業中の新幹線に並行して私鉄を高架化する先行事例は全国的にも無く、参考とできる事例は無かった。

（委員）

- ・地盤状態が想定外とのことだが、先行して新幹線の整備が行われているため地質調査結果などはJR等から提供してもらい、参考としていたのではないのか。  
⇒新幹線整備時の調査結果は共有いただいたが、近接していても実際の整備箇所を調査してみると地盤の状況は異なっている場合がある。

#### ○主要地方道 高岡環状線（高岡市上伏間江～佐野）

（委員）

- ・作業員の確保状況等はどうか。  
⇒現在のところ作業員も確保できており、順調に進んでいる。

（委員）

- ・高架橋の除雪作業で配慮すべきことはあるか。  
⇒高架橋のランプ部は坂道となっているため凍結への注意が必要。

（以上）